

第3回 氷見市総合計画審議会第1部会 会議録		
日 時	令和3年10月21日（月） 13時30分から14時40分まで	
場 所	氷見市役所 全員協議会室	
出席者	委 員	尾畑納子、角谷禎成、菊川昌彦、越坂裕子（代理：笹島）、高嶋達（代理：七分）、釣谷聡、松井みづほ、松波久善（出席8名）
	市関係職員等	東軒企画政策部長、事務局（地方創生推進課）
次 第	1 開 会 2 企画政策部長あいさつ 3 議事 (1) 第9次氷見市総合計画基本計画体系図（案）について (2) 第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について (3) 意見交換について 4 閉 会	
資 料	【説明資料】 資料1 第9次氷見市総合計画審議会部会名簿 資料2 第4回氷見市総合計画審議会における意見に対する対応について 資料3 第9次氷見市総合計画基本計画の重点施策におけるポイントについて 【参考資料】 参考資料1 第4回氷見市総合計画審議会会議録 参考資料2 第9次氷見市総合計画策定のための市民意識調査の結果について	

1 開 会

（司会）

ただいまから、第3回氷見市総合計画審議会第1部会を開催する。

2 企画政策部長あいさつ

（企画政策部長）

皆さんには、多用の中、第3回氷見市総合計画審議会第1部会に出席いただき、御礼申し上げます。

また、日頃から市政の発展に格段のご支援、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

今年6月に皆様のおかげをもちまして第9次総合計画基本構想が策定され、目指す都市像を「人 自然 食 文化で未来を拓く交流都市 ひみ」としたところであり、今回は、そ

の基本構想から具体的な基本計画について議論していただきたい。本日の部会におきましては、この計画をより良いものとするために、「防災、生活安全、保険・医療・福祉など」に関する事項について、それぞれの専門分野の知見を活かしていただき、ご議論していただきたいと考えている

皆様方におかれましては。忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしく願います。

(資料確認)

資料について説明・確認

3 委員の紹介

出席者、委員代理出席者の紹介

4 議事

(1) 第9次氷見市総合計画基本計画体系図(案)について (2) 第9次氷見市総合計画基本計画(素案)について

(事務局)

議事進行は、部会長に願います。

(部会長)

基本計画について今回で概ね固めていきたいので、前回同様、闊達なご意見を願いたい。

最初に体系図と計画の素案について事務局から説明を願います。

(事務局)

「資料2 第4回氷見市総合計画審議会における意見に対する対応について」

「資料3 第9次氷見市総合計画基本計画の重点施策におけるポイントについて」
を説明

(部会長)

前回から変わられた委員の方もおられるが、9月に総合的な会議があり、そこで挙げた意見が資料2として追加として挙がってきている。間に色々と修正があり、分かりにくいところはあるが、新しい感性、違った観点から見ていただいて、ブラッシュアップしていきたい。見ていただいた中でやはりここはといった点があれば、これまで同様に議論を進めていきたい。

また、資料3は、これまでの氷見市の考え方と国の考え方を見て、なるべく統一、方向性を同じようにしていくという意味で提示いただいたので、国の方向性と氷見市が目指

す方向性が同じような中で氷見市らしさを出していくことが重要と感じる。

検討する幅が広い中、住みたいと思っただけのまちにしていこうという事だと思いが、参考資料の調査結果について、住みたいまちにも関連があると思うので、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

「参考資料 第9次氷見市総合計画策定のための市民意識調査の結果について」を説明

(部会長)

調査の対象となった方は、高齢の方が多いと感じたが、そういった方から見て、重要と感じておられる項目も参考にさせていただければと思う。安全や健康を皆さん重要とされていると感じた。

これらを踏まえ、自由にご発言いただきたい。

(委員)

今、説明いただいた参考資料2の4ページのアンケート結果についてだが、1番は「災害に強い安全・安心なまちづくり」とのことだが、前回の部会の時に私は欠席していたのが、私が警察官として春に赴任してからゴミがかなり落ちていると感じる。ゴミというのはたばこの吸い殻、コンビニの食べ物の袋などが、いたるところに落ちている。併せて警察署には、不法投棄の相談が結構届いている。日用品が山に捨ててある、私の家にゴミが置いてあるといった相談があるが、住みたいまちの観点において、観光客の誘致をしている中でゴミが多いと「ここ、どうなの」と私でも感じるの、住んでいる方もそうであろうし、今後、氷見に来られる方もそう思うのではないかと。単なるゴミだが、放置しておいていいのかということ。

皆さん「窓割れ理論」はご存じだろうか。検索していただければと思うが、少し紹介させていただくと、軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるという考え方のこと。小さな事件を徹底的に取り締まり、なくすことで大きな犯罪を防ぐことができるという環境犯罪学上の理論になる。小さなことが放置されていくと、安全・安心な氷見市で大きな事件がどんどん発生するようになるのではないかと危惧するところである。

以前、アメリカのニューヨークでは、地下鉄の落書きを放置しており、大きな事件が発生していたが、落書きを消していくことで事件が減少したとのこと。この「窓割れ理論」は、空き家の窓ガラスが1枚割れていた場合、それを放置していることで、「ここは窓ガラスが割れているから、他の窓ガラスも割っていいのかな」といった心理が働いて、どんどんエスカレートしていく。そういったものをなくせば、犯罪も減るとのことから、小さなゴミもなくすことが必要と考える。小さい頃から、家庭や学校でモノを捨てては駄目だと教育はされ

ていると思うが、今一度、我々を含めてそういった指導、教育を行った方がいいのではないかと思う。

併せて、防犯カメラ。防犯カメラを設置することによって抑止にもなる。犯人を捕まえる、探すといったものではなく、ここに防犯カメラがあるから悪いことをしては駄目だとの心理が働くので、是非、防犯カメラの普及をさせていただきたい。ちなみに宣伝ではないが、今、県警察には県警本部で防犯カメラの機材を買い取り、貸し出しを行うという制度がある。行政というより各町内の方から「ここに設置してほしい」と県警に相談していただければ、数十万円する機材は県警本部で購入・設置し、防犯カメラで録画していく際にかかる電気料金だけ地元の方が負担していただくという制度があり、県内では11台設置している。今現在、氷見市ではそれほど犯罪があるわけではないが、今後、人が多くなっていくことを予想すれば、犯罪抑止のためには防犯カメラの普及活用も有効と感じる。安心・安全な住みたいまちには、そういったことも必要と思い、説明させていただいた。

(部会長)

体系図からいうと1番になり、皆様も重要視されているということでお話をいただいた。防犯カメラの設置についての補助事業、制度について盛り込むということは、非常に重要なことだと思う。補助制度を使うとそれほど負担がかからず、できるということなので是非、活用していただきたい。

ゴミ、不法投棄のお話があったが、少し前に環境審議会があり、ごみ関係の数値の報告があり、コロナの関係か、去年、令和2年度は比較的少なかったがその前は5倍くらいあったとのことだった。山間地域の方に防犯カメラを適宜設置していただくとか、必要とされている地域に住んでいる方と相談して設置していくといった活用をしていくということで、併せて安全だけでなく、快適にもつながっていくと思う。

カテゴリーごとに見ながら、これでいいのか、少し加えた方がいいのかについてもご発言いただければと思う。

2つ目は誰もが元気に暮らせる環境の充実となっている。これも氷見の皆さんが非常に重要視している項目で医療や福祉等の分野になるが、ご意見はないか。

(委員)

氷見市は高齢者が大変多い地域だと思うが、お年寄りになると車の運転が危なくなってくる問題がある。氷見市は非常に広い市でありまして、若いうちは自分で運転して色々なところに出かけていた方が、高齢になられてもどこへも行けなくなるからといって、ずっと運転を続けている現状がある。お年寄りが無理に運転しなくても色々な所へ行けるような仕組みづくりについて市をあげて交通、今、コミュニティバス、久目バスや山間部など、いくつかの地域であるかと思うが、そういったものを積極的に充実させていただくとか、高齢者

の足の確保をお願いしたい。主に若い方をターゲットとすると挙がってこないが、約 35%と氷見市は高齢化率が高い地域でもあるし、高齢者に目を向けて、高齢者になって無理に運転しなくても色々なところへ行ける市というのは、市を挙げて対応策を充実させていただければありがたい。

私は地域包括ケア会議に出ていたことがあり、その中では買い物に行きやすい、病院に行きやすい、そういった所へどうやって行ったらよいかといった、交通の足をどうしたらよいかの話によくなるので、そういった所が挙がっていないと思う。最後は元気に過ごせる暮らしの充実に入ると思う。

(部会長)

どの地域も同じだが、氷見市は高いところ、山から海まで非常に幅広いので、全体として公共交通が非常に重要になっていると思う。以前のものでは、交通空白地の有償保障等、色々挙げておられる。とりわけ、高齢者の方々の移動手段についてどう考えるか。健康寿命などを考えると、色々動いて刺激を受けた方が良いと考えられるので、街の人は運動するか体操をすとかありましたけれども、こういった形で組み込んでいけばいいのか、協議していただければと思う。

(委員)

素案に書かれている具体的な内容について確認させていただきたい。

私、昨年の部会に参加させていただいており、その後説明があったかわからないが、KPIがいくつか挙げられており、今は項目のみだが、この後、検証や目標値を設定するということでよろしいか。

(事務局)

現在は候補として挙げており、この中だけでなく、これ以外のもので適当なものがあれば挙げていき、決定していきたいと考えている。

(委員)

了解した。私としては、医療や福祉関係について少し気になるところを指摘させていただきたい。まず 15 ページだが、高齢者や介護のところの KPI として新規透析導入者の減少を挙げているが、高齢者や介護の予防の指標としては、こちらで挙げている施策と新規透析導入はつながりにくいと感じた。もし、入れるとしたら成果の指標という意味では、医療保険制度の導入であるとか健康届関係で検診などの受診率が成果の指標、効果の指標になるかと思うが、こちらのページの指標としてはいかがなものかと感じた。

続きまして、18 ページ健康づくりの推進において現状と課題のところの下から 3 つ目の○としてコロナのこと、これは非常にタイムリーな話題ではあるが、この中の表現で少し気

になったのが、1行目の後半、「特に子どもや高齢者は病気にかかりやすく」とあるが、必ずしもそうとは限らないところがあるので、この書き方は必要ないのではないかと思う。情報の周知と知識の啓発は同じような話になると思う。また、市の役割としては市民の皆様への知識の普及、啓発、予防接種がメインとなると思うので、感染予防に対する正しい知識の普及、啓発や予防接種を実施して蔓延を防止することが求められるといった内容でいいのではないかと思う。

続きまして公衆衛生の向上の確保で、公衆浴場が挙げられているが、公衆浴場だけがここで突然取り上げられていることの趣旨がよくわからない。県内の公衆浴場の数が非常に少なくなっていることが数年前から話題に上がっていることは、私も承知している。内湯がほとんどとなったため、営業しても採算が取れないとは聞いているが、ここで挙げるには前段階として、公衆浴場がなぜ、ということがないと唐突だと思う。また、組合の育成もどうかと思う。20 ページでも組合と育成保護というところがあるが、そもそも公衆浴場組合というのは氷見市にはないのでは。

(事務局)

組合員が2名だけだが存在する。

(委員)

そもそも一般公衆浴場は、氷見市では非常に少なかったと思うので、施策としてどうか。もう少し表現を変えていただいたらいいのではないかと思う。

誤字になるが、21 ページの現状と課題の○2つ目の最後。医療機関地域包括ケアシステムと書いてあるが、最初の「医療機関」の文言はいらぬのでは。

跳びまして47 ページ。食育の推進のところだが、生活習慣病の増加や健康寿命の延伸に関する施策等もこの分野の中に取り込んでもいいのではないかと思う。

また、少し跳びまして78 ページ、79 ページのところで結婚・出産しやすい環境づくりになる。今回、不妊に対する施策と課題を色々取り上げていただいているが、不妊だけではなく、不育症、おなかの中でお子さんを育てることができない不育症の対策も重要とされているので、不妊と合わせて不育というのも入れていただきたい。こちらのKPIの候補として、分娩施設数を挙げられているが、これを指標にしてもなかなか難しいのではないかと思う。

次に81 ページ、子育て支援のKPIについて。KPIの候補として、保護が必要な子どもがいる世帯のうち市が支援している割合となっているが、私どもの立場としたら、保護が必要な子どもはすべて、本来支援すべきだと思うし、保護が必要とはどういった方を対象にするかというのもなかなか難しいと思うので、指標とするのは見直しいただければと思う。

(部会長)

事務局から今のご質問に答えることができるものはあるか。

(事務局)

公衆浴場については、今、取り組んでいるが、どこまで基本計画に記載すべき内容かも含めて、いただいたご意見、今後の取り組み等を踏まえて、記載の内容をどうするか検討させていただきたい。K P Iについても色々お話しいただいたので、適当かということも精査していきたいと思っている。

(部会長)

これから先の話なので、これまでのものをそのまま入れるのではなく、この先に必要となる指標を入れていただきたい。そういった意味では、各専門分野の方がおられるので、指標についてもご指摘いただければと思う。

(委員)

7ページの1番、「土砂災害防止対策の推進」について、○の5番目に「小規模急傾斜地防止対策」とあるが、正確に言えば、「小規模急傾斜地崩壊防止対策」ですので修正していただければと思う。

同じページで(2)浸水被害防止対策の推進があるが、書き出しのところで想定を超える豪雨に伴い浸水被害が発生といった記載があるが、実際、まだ改修がされていない未整備の河川では、想定内での雨でも浸水被害が発生することがある。ここで言う、想定を超えるといった記載は削除した方が、表現としては正しいのではないかと思う。

施策の中に河川改修として2級河川の整備の促進等が挙げられているので、次の8ページの達成目標に例えば、河川改修済み件数、河川整備済み件数など河川整備に関する項目を追加した方が良いのではないかと思う。

(部会長)

7ページの浸水被害のところは単に豪雨とするということによいか。

(委員)

「豪雨に伴い」からでよいと思う。豪雨という言葉が気象庁の用語で調べてみると、著しい災害が発生した顕著な大雨現象とあるので、豪雨だけを記載するのが正しい表現ではないか。

(部会長)

河川改修をしなければならない場所は、あらかじめ調査はしているのか。

(事務局)

改修しなければならない箇所の洗い出しは行っているが、それがどれだけ改修が進んでいるか、回収率までは今指標として把握していない。

(部会長)

安全なまちにしていく上での指標として考えてもよいと感じる。
他にご意見はないか。

(委員)

私の専門ではないが、一市民の意見として、公園・緑地の充実において、都市公園の質の向上、都市公園の利便性の向上として、氷見市内では朝日山公園は整備され、海浜植物園もリニューアルしてお客様も大勢来られている。

その他に氷見市の公園で思い浮かぶのは島尾の海浜公園。昔からあり、松田江浜の傍で立山も望め、夏になれば浜茶屋ができ、海水浴客も大勢来ている。氷見から朝日町までのサイクリングルートの中にあり、島尾駅からも近いし、動物もいるということで、結構よいモノが揃っていると思うが、一歩足を踏み入ると汚いかと。噴水はあるが動いていないし、道のレンガもボロボロになっている。せつかく、子どもと触れ合えるようなポイントが沢山あるのに、ボロボロのままになっているのが勿体ないと地域住民としてずっと思っていた。

整備してサイクリングの途中で立ち寄ってもらったり、近い島尾駅から海水浴客が泳いでからそのまま遊べたりとか、拠点とならないかと昔から思っていた。

次に海浜植物園だが、リニューアルされてから夏のイベント期間には、お客様が大勢来られて車で行ったら、駐車場が満車で入れなかったことがあった。将来的には氷見線、もしくはLRT化される話が出ているが、LRT化すれば、どれだけお客様が利用するかはまだわからないが、傍に駅ができれば車で来なくても大丈夫なようになり、もっと賑わいが創出できるのではないかと思う。

(部会長)

氷見には美しい花がある、街中もそういうイメージだったが、公園なども人が少なくなってくるとだんだん手が入らなくなる気もする。是非、今の意見のようなことを出来たらよいと思う。

(事務局)

今のLRT化についてだが、検討委員会では氷見駅から島尾駅の間に1つの駅ができないかと検討している。その中で海浜植物園は市の運営施設なのでそういった意見も出ている。島尾については、ハマナス荘があり、会議所が扱っているが、全体の再編をどうするかといった課題もあるので、それらを含めて検討していきたい。

(部会長)

植物園については、純粋な植物園から子供たちが利用できるような変わった。ある会合で植物があまりないとの意見があったが、実際はどうか。

(事務局)

リニューアルの際に植物園の部分が少なくなっている。

(部会長)

無いわけではないのか。

(事務局)

無いわけではない。ただ、残りの半分は、子育て、子どもやお母さん方が勉強できる施設となった。

(部会長)

私も外から来て、素敵だと感じた。お子さんがいらっしゃるご家庭にはよいと思ったので、維持していただきたい。コロナ禍においてオンラインで何か色々とできる施設もあった。これからの時代の人に使い勝手がよい施設に変えていっていただきたいと思う。

同じ 29 ページだが、公園と並んで住環境整備において、氷見市は空き家の問題が深刻で地震等の懸念もあるとのこと。先程のSDGsとか、考え方を言っているので、エコ住宅とか、ふるさと電力を使いながら、建てられるところに補助が出るなどのことをここに盛り込めないか。建設と電気の関係性について、住環境整備のところに入れるのか、エネルギーのところに入れるのかは分からないが、検討いただけないか。

他にどうか。

(委員)

素案の 13 ページについてだが、「誰もが元気で過ごせるくらしの充実」で介護・高齢者福祉の充実について現実と課題が挙げられている。下から 2 つ目の○で、要介護・要支援認定者が増加し、サービスの需要が高まっているにもかかわらず、介護人材の不足や定着率の低さによるサービス供給の不足が課題として挙げられている。これに対する施策が見当たらない。ご承知の通り、現在、福祉・介護人材の不足は顕著であり、求人倍率も群を抜いて高くなっている。氷見市内では人材の取り合いとなっており、福祉・介護人材の育成がこれからの氷見市にとって、とても重要ではないかと思う。特に若い世代、学生が市外にどんどん転出している中で、福祉・介護の重要性、魅力的な仕事であるといった情報発信がもっと必要なのではないか。仕事の魅力を発信することによって、市外で勉強はするけれども氷見に帰って、ふるさとのために一生懸命働いてみようかと考えてもらうようなことが、人口減少

のスピードの抑制やUターン率の向上にもつながってくる。少子高齢化が進展している氷見市にとっては非常に重要ではないかと思う。可能であれば、主要施策の中に介護人材、福祉人材の育成を項目として設けていただけないかと思う。

私自身も反省すべき点であるが、氷見市内にたくさんの社会福祉法人、NPO法人がある。そういった法人同士の連携、あるいは大学など高等教育機関との連携によって、魅力発信ができるのではないかと思うので、施策の中に盛り込んでいただきたい。

(事務局)

介護の問題に関しましては、今、地域福祉計画を策定しているので、整合性を取るようにした。間違いなく、介護人材育成というものが必要であるので、盛り込むようにしたい。

(部会長)

感想などでもよいので、他にないか。

(委員)

私は、氷見市の山間部には主にバスで行っている。これを逆にしたい。大きなデパートなどに山間部の人を送り込んで、何時間で買い物をしてくださいとした方が良いのではないか。近所、隣のおばあさん方は一人暮らしが多く、ご近所の方との話し相手にもなるし、逆にした方が良いのではないかと思う。近所、隣の家が離れていたとしてもお互いのことがわかるのではないかということで、テレビでもそういった話が放送されていた。

また、昨年の除雪の際に除雪の区分がはっきりしていないと思った。決められた区分の角の家が範囲ではないとして、1軒分だけ除雪がされていないなど、決め決めでされていることについてどうかと思うことがあり、委託業者との区分など改めて考えた方が良いのではないかと思う。

防犯カメラの話もあったが、部落に行けば、高齢者の一人暮らしが多いので必要だと思う。

また、高齢者が元気になるような、運動などが必要ではないかと思う。高齢者も積雪やコロナの影響などもあり、家でじっとしていることが多くなっている。100歳まで頑張ろうといった高齢者も多い中、運動や知り合いと話ができる場所の確保も必要ではないかと思う。

(委員)

先程の私の話の中で、思い出したことがあり、確認させていただきたいが、植物園周辺の防災林が枯れてきており、植え直していると思う。その一帯のことで、植物園の向かい側に遊歩道があるが、今後、整備される予定はあるか。

(事務局)

すぐに整備を行うといった話は聞いていない。

(委員)

砂で埋もれて道がどこだったか分からなくなっていたり、橋も通行止めになっていたり、お客様が来られる際に、氷見の海岸が汚いということにならないか。晴れた日には立山連峰が見えるとPRして、そこを歩いて海に行けるようにすれば、夢の話かもしれないが、いいのではないかと思い、整備しないのかと思った。

(事務局)

今の段階では調査していないが、植物園に来られている方が天気のよい日に海に行こうとかあるので、整備については検討させていただきたい。

(部会長)

LRTについては、県内では高岡市も関心を持っておられ、氷見のLRT担当の方や、伏木の方のグループと一緒に盛上げる活動を聞いているので、まず高岡と氷見の間で早くできるとよいと思う。食べ物やお酒を飲んでとなると、車で来るのではなくて公共交通機関でとなる。また、氷見に住んでいる方も、それを使って、家は氷見、仕事は高岡といった交流が可能となると、少し時間はかかるかもしれないがよいと思う。

それを考えると、ゴミなどの問題があるといかがと思う。きれいにして、ゴミを落とさせないようなことが必要になってくるのではないか。市民の意識を醸成するためには、まずは、行政が仕掛けて、根付かせていくまちづくりができればと思うので、その土台となるようなものが必要ではないかと思う。

短い時間なので、お帰りになられてから、再度、資料などを読んでいただいて、皆様のご意見をお聞きになられて、思いつかれたことがあれば、是非、言っていただけたらよりよいものになると思うので、お願いしたい。

一通りご意見をいただいたので、事務局と調整し、全体の部会長にお伝えし、調整させていただきたい。絵空事のようなことも現実的なこともあったが、地に足を付けた計画として進んでいけばよいと思う。ただ、将来的には人口が減少することは止められないし、減少してもそこで暮らしていけるまちづくりが重要ではないかと思う。外から来ていただく、山の方に住んでいる方も未来技術などを活用して、生活してきた環境の中で長く、持続的に生活していくことが良いと思う。そういったことを踏まえた、抽象的なことばかりだが、総合計画に落とし込んでいただければと思う。

様々な視点からご意見を賜り、ありがとうございます。今日、いただいたご意見は、先程も申しましたが、他の部会との関連もあるので、他の部会長と調整をさせていただき、計画案に反映させていただきたいと思う。

皆様ありがとうございます。以上で事務局にお返しする。

5 閉会

(事務局)

どうもありがとうございました。今程、部会長が発言された通り、お戻りになられた後で資料をご覧になってお気づきの点、質問、意見があれば、事務局の地方創生推進課までご連絡いただきたい

本日第1部会を開催し、昨日、第2部会を開催しており、明日、第3部会を開催する予定となっている。この3つの部会を開催し、それぞれいただいたご意見を来月11月中旬にそれぞれの部会長と会長で協議いただき、ご意見を基本計画案に落とし込む作業をしていく予定である。

次回審議会の開催につきましては、来年、年明けの1月24日を予定している。正式に日程が決まりましたら、皆様にご案内させていただき、改めて基本計画案をお示しさせていただく。その際には、本記載がなかったKPIの目標値や現状数値などを記載したものをお示ししたい。また、その際には、皆様からご意見をいただきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

以上をもちまして、第3回氷見市総合計画審議会第1部会を閉会する。本日は、ありがとうございました。